



長岡市における 市民協働の防災体制

～協働型災害ボランティアセンターガイドライン(案)～

平成25年3月

長岡市

制作:中越防災安全推進機構

目次

はじめに ～本手帳の趣旨～	1
協働型災害ボランティアセンター【長岡方式】	2
– 災害ボランティアセンターのコンセプト	2
– 災害ボランティアセンターの設置手順	4
– 災害ボランティアセンターの設置場所	4
– る被災者支援のかたち	5
– ボランティアの募集	7
– 情報の収集・発信	7
– 災害ボランティアセンターと長岡市との連携	7
– 運営資金	8
– 構成団体と主な役割	8
– 長岡市における活動実績	9
長岡方式協働型災害VCがなぜ可能？	11



はじめに ～本手帳の趣旨～

平成22年度から実施している「被災時対応検討会」並びに「災害支援活動検討会」では、新潟県中越大震災の経験を踏まえ、長岡市で甚大な災害が発生した場合、市内の関係団体・関係者がどのように連携・協力して災害対応に当たるかを議論してきました。

その結果、平成22年、平成23年の豪雪及び東日本大震災が発生した際に、協働型災害ボランティアセンターを素早く立ち上げ、効率的・効果的に運営するなど、大きな成果を上げています。

本手帳は、これまでの検討会の議論や災害ボランティアセンターの運営経験から得られた知見を整理し、将来再び災害に見舞われた場合に関係団体・関係者が迅速かつ的確な行動がとれるよう、ガイドライン(案)としてまとめたものです。また、巻末には長岡市の関連する防災の取組を記載しました。

本手帳を関係団体・関係者に配布することにより、地域防災力の一層の向上に寄与するとともに、今後もさらなる進化を遂げていきたいと考えています。

協働型災害ボランティアセンター 【長岡市の場合】

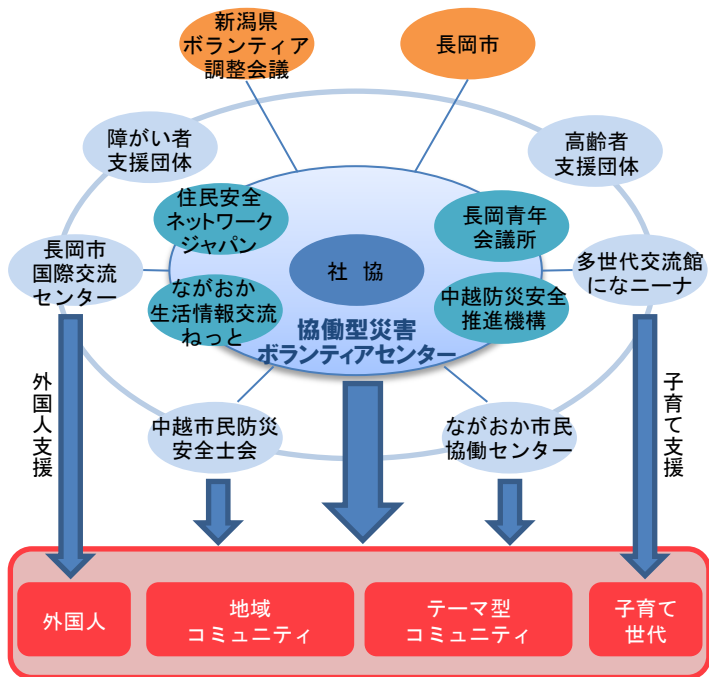
長岡市の地域防災計画では、達成目標として「災害ボランティア活動については、長岡市社会福祉協議会が主体となり、NPO法人等の各種団体、個人ボランティア等と協働の上、災害ボランティアセンターを設置し、コーディネートを行う。」と明記されています。

長岡市では、災害が発生した際、被災地域の円滑な復旧・復興のために、関係団体の力を結集し、市内外からのボランティアの受け入れや調整を実施するために災害ボランティアセンター（以後、「災害VC」）を設置します。他市町村等で広域災害が発生した場合においても、市内への避難者の受け入れや他市町村への物資支援等の必要が生じた場合は、状況に応じて設置の要否を判断します。

災害ボランティアセンターのコンセプト

- 原則として、行政は災害VCの設置場所を準備し、民がその運営を担います。
- 災害VCは、長岡市社会福祉協議会が主体となり、市内関係団体等との協働により設置・運営します。
- 災害VCの構成団体がそれぞれの強みを活かせる体制を柔軟に構築します。
- 地縁型コミュニティ（町内会や自主防災会など）やテーマ型コミュニティ（サークルや障がい者団体など）と連携・協働し、支援が必要とされるところに手を差し伸べます。
- 地域の共助力を削ぐ過剰な援助ではなく、共助力を引き出す適切な支援を心がけます。

- ・災害VCの構成団体が、それぞれのネットワークを活用して、情報の受信・発信を行うことで、信頼できる外部団体等からの支援を円滑に受け入れるという役割(フィルター機能)を果たします。



協働型災害ボランティアセンターが目指すイメージ

※災害VCを構成する団体が、それぞれの特徴やネットワークを活かして災害支援活動を行います。

災害ボランティアセンターの設置手順

長岡市における災害VCは、災害発生時に以下のような手順で設置されています。

災害VC設置に向けた行政の動き

長岡市福祉保健部と社協で災害VCの設置について協議（設置を決定）

社協から
機構へ
連絡

災害VC設置に関する流れ

① 社会福祉協議会と中越防災安全推進機構で協議し、災害VCの準備会議の日時、場所を決定。

② 機構から関係団体等に準備会議の開催を連絡。

③ 集まれるメンバーが参集し、準備会議を開催。災害VCの設置・運営方針、体制を決定。

④ 決定した方針に基づき、災害VCの設置・運営を開始。

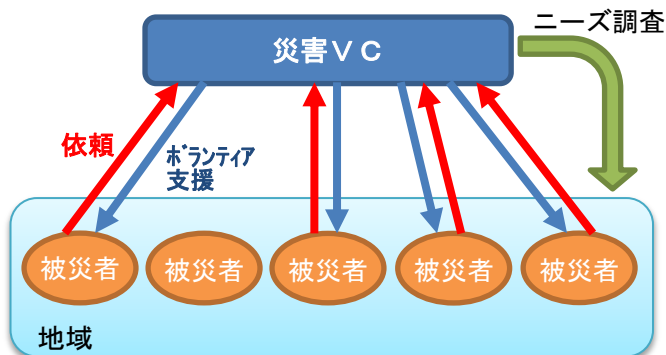
災害ボランティアセンターの設置場所

災害VCは、基本的に、ながおか市民防災センターに設置します。ただし、災害発生地域が支所地域の場合は、支所地域に災害VCを設置し、ながおか市民防災センターはそのバックアップ拠点となるなど、状況をみながら臨機応変に対応します。

被災者支援のかたち

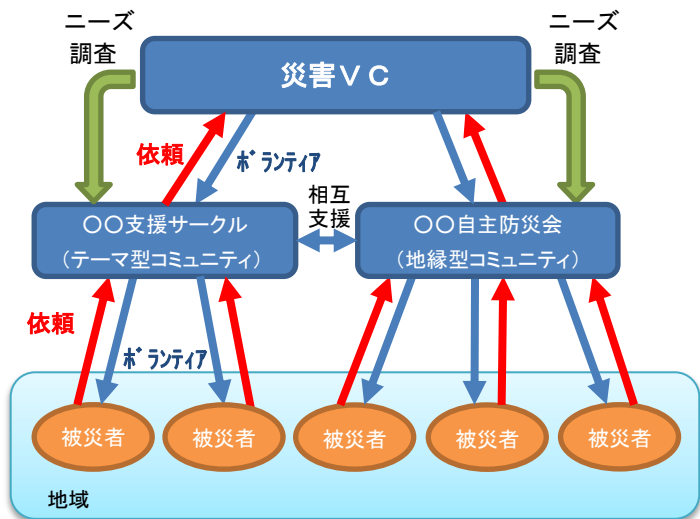
災害VCによる被災者支援は、従来型の災害VC方式によるニーズ収集やマッチングも行いますが(図①)、支援が必要な世帯に支援が行き届かなかつたり、本来ならば支援の必要のない世帯に支援が入ったりすることで、地域の共助を逆に阻害してしまうことも懸念されます。

そこで、可能な限り町内会や自主防災会といった地域コミュニティと連携を図り、地域の共助力をむしろ引き出しながら、支援が必要なところに支援が届く災害支援体制づくりを目指します(図②)。



図① 従来型の災害VC

被災者が災害VCに直接、支援を依頼をするか、災害VCのニーズ調査により、支援が必要な世帯を見つけ出すかたち。「声をあげられない」被災者などに支援の手が届かない可能性があります。



図② コミュニティ連携型の災害VC

被災者ニーズを町内会や自主防災会などの地縁型コミュニティや、障がい者支援団体やサークルなどのテーマ型コミュニティを經由して把握し、ボランティア支援を行うかたち。

地域の実情を知るコミュニティが間に入ることにより、優先順位を考慮した支援が可能となります。また、地域の共助を補完する形でボランティア支援を行うことで、共助を阻害せず、むしろ促進するといった効果が期待されます。

一方で、都市部などコミュニティが希薄な場所では、十分に機能しないことも考えられるため、日常からのコミュニティづくりが必要とされます。

ボランティアの募集

ボランティアの募集は、災害VCの設置後、市内外の一般市民に対して広くボランティアの募集を行います。また、平時から災害ボランティア団体を登録しておくことで、災害VCを立ち上げた後、すぐにボランティア活動が開始できる体制の構築を目指します。

情報の収集・発信

- 災害VCに関する情報発信は、長岡市、NPO法人ながおか生活情報交流ねっと、NPO法人住民安全ネットワークジャパン等の協力の下、広報、マスコミ、ホームページ、Facebook、ツイッターなどを通じて情報発信を行います。
- 災害VCの構成団体は、それぞれのネットワークを活用して被災地域の情報収集やボランティア募集の情報発信などを行います。

災害VCと長岡市との連携

— 設置場所の確保 —

- 長岡市は災害VCと協議の上、災害VCを設置する場所を確保します。

— 情報の共有 —

- 長岡市災害対策本部から適宜災害ボランティア活動に必要な情報の提供を受けます。災害VCからはボランティア活動の状況等を報告します。

— 活動資機材の確保・調達 —

- 災害ボランティア活動に必要な資機材に関しては、長岡市や社会福祉協議会、その他構成団体等が保有しているものを有効に活用して対応します。

運営資金

災害VCの運営資金は、主に以下の方法で調達します。

- 社会福祉協議会を介した中央共同募金会からの災害等準備金の活用(上限300万円)
- 独自の活動支援金募金の実施 等

関係団体と主な役割 (H25年3月現在)

(社福)長岡市社会福祉協議会

ボランティア受付、マッチング、事務局機材の準備

(特活)住民安全ネットワークジャパン

HPやFacebook、ツイッターなどを通じた情報発信

(特活)ながおか生活情報交流ネット

HPやFacebook、ツイッターなどを通じた情報発信

(社)長岡青年会議所

ボランティアの募集、支援物資の手配、配送

中越市民防災安全土会

ボランティアの募集、技術指導、避難所の運営支援

(特活)にいがた災害ボランティアネットワーク

災害VCの運営支援、アドバイス

(特活)多世代交流館になニ～ナ

子育て世代に対する支援(外部連携)

長岡市国際交流センター

外国人に対する支援(外部連携)

(社)中越防災安全推進機構

ボランティアのコーディネート、情報収集、安全管理

長岡市

災害VC設置場所の確保、資機材の確保、情報提供

長岡市における活動実績

平成22年度

長岡市雪害ボランティアセンター

- 設置日 平成23年1月31日(月)
- 設置場所 ながおか市民防災センター
- 活動期間 平成23年2月4日(金)～6日(日)
- 支援対象 自力での除雪作業が困難な世帯
- 活動内容 玄関先、避難口、住宅周りの除雪作業、
屋根雪下ろし(危険が伴う場合は対象外)
- 除雪件数 47件
- ボランティア 実人数174人(延べ205人)
- 構成団体 長岡市社協、ながおか生活情報交流ねっと、
住民安全ネットワークジャパン、にいがた災害ボランティアネットワーク、中越防災安全推進機構 他

平成22年度

長岡災害支援ボランティアセンター(VC)

／東日本大震災ボランティアバックアップセンター(VBUC)

○概要

長岡災害支援VC；東日本大震災の避難所が長岡市内に開設されたことに伴い、被災者への支援活動を行うボランティアの調整を実施。

東日本大震災VBUC；東日本大震災の被災地で支援活動を行う団体等に対して、長岡を拠点に、救援物資の補給、情報の集約・発信、支援者のコーディネート、ノウハウの提供等を実施。

- 設置日 平成23年3月17日(長岡災害支援VC)
平成23年3月18日(東日本大震災VBUC)
- 設置場所 ながおか市民防災センター

(続き)

- 構成団体 長岡市社協、住民安全ネットワークジャパン、長岡青年会議所、中越市民防災安全士会、多世代交流館になニーナ、中越防災安全推進機構 他
- 協力:真如苑救援ボランティア サーブ(SeRV)

【災害ボランティア】

- 活動期間 3月19日～6月16日 (91日間)
- 活動内容 支援物資の仕分け・積み込み、避難所運営支援など
- 総登録者数 1,644人 (長岡市民に限定)
- 延べ活動人数 3,755人(日最大124人、日平均41.1人)

【被災地への物資支援】

- 活動期間 3月18日～5月24日(68日間)
- 延べ入荷数 2,708件
- 出荷件数 158回(45日) 重量 169.4トン
- 活動連携先 宮城復興支援センター、SAVE IWATE 他

平成23年度

長岡雪害ボランティアセンター

- 設置日 平成24年1月30日(月)
- 設置場所 ながおか市民防災センター
- 活動期間 第1次:平成24年2月1日(水)～5日(日)
第2次:平成24年2月11日(土)～12日(日)
- 支援対象 自力での除雪作業が困難な世帯
- 活動内容 玄関先、避難口、住宅周りの除雪作業、屋根雪下ろし(危険が伴う場合は対象外)
- 除雪件数 第1次:43件、第2次:43件
- ボランティア 第1次:240人、第2次:234人
- 構成団体 長岡市社協、住民安全ネットワークジャパン、長岡青年会議所、中越防災安全推進機構 他

長岡方式協働型災害VCがなぜ可能？

～平時からキーマンが助け合える関係づくりを実践中～

背景

平成16年の中越大震災では、市内のNPO等がそれぞれ独自に被災者支援活動を展開し、一定の成果を上げることができましたが、一方でそれぞれが単独で活動を展開し、団体間の連携や協働はあまり行われず、結果として効率的な支援活動ができなかったり、支援が十分に行き届かなかった等の課題も指摘されました。



平成22年度「被災時対応検討会」を設置(定期的に議論)
災害発生時におけるスムーズな被災地支援活動を目指して、関係機関の役割を確認し、緩やかなネットワークを構築することを目的に議論を開始(毎月1回程度)。
(主催:中越防災安全推進機構, 中越大震災復興基金事業)

H23年長岡市雪害
VCの設置・運営



東日本大震災VBUC
/長岡災害支援VCの
設置・運営

平成23年度「被災時対応検討会」を自主的に継続
東日本大震災や雪害の対応について議論を展開。
(主催:中越防災安全推進機構, 参加団体が経費を負担)



平成24年度「協働型災害支援活動検討会」として継続
過去2年間の議論や災害VCの運営経験を踏まえた上で、協働による災害時対応及び防災体制のあり方について検討。
(長岡市から中越防災安全推進機構へ事業委託)